

女性に対する暴力のない社会をめざして ～男たちよ「フェアメン」になろう!～



一般社団法人
ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン

多賀 太さん

プロフィール

関西大学文学部教授、一般社団法人ホワイトリボンキャンペーン共同代表、大阪市男女共同参画審議会会長。専門は教育社会学、ジェンダー論。1990年代半ばから、関西や九州の市民グループなどを通じて、男性が抱える問題の解決や男性の生き方の問い直しに取り組む活動に参加。主著に『男子問題の時代?』（学文社）、『揺らぐサラリーマン生活』（ミネルヴァ書房）など。

ホワイトリボンキャンペーンとは?

白いリボンをシンボルとした啓発運動にはいくつかの種類がありますが、その1つに、男性が主体となって女性に対する暴力撲滅を訴える世界的啓発運動「ホワイトリボンキャンペーン」があります。

この運動は、ある痛ましい事件がきっかけとなって始まりました。1989年12月6日に、カナダ・ケベック州のモントリオール理工科大学に25歳の男が侵入し、女子学生ばかり14人を殺害した挙げ句に自殺しました。犯人の男は、自分の人生がうまくいかないのは女性の地位が向上したからだと思いつけ、女性への逆恨みからこの犯行に及んだのです。この事件は、女性に対する暴力とその背景にある女性蔑視の根深さを、あらためて世界中に知らせました。



ホワイトリボンキャンペーン
創設者マイケル・カウフマン

この事件を受けて、「自分たち男性にも女性への暴力反対の声を上げる責任がある」と痛感したマイケル・カウフマンら3人の男性が、女性への暴力反対の意思表示として白いリボンを身に付けるよう呼びかけたところ、カナダ全国で約10万人が賛同して応え、各地の男性たちが女性に対する暴力撲滅に向けた議論を行いました。これがきっかけとなり、11月25日（女性への暴力撲滅のための国際デー）からモントリオール事件の12月6日までの期間を中心に、白いリボンをシンボルとした女性への暴力撲滅キャンペーンが行われるようになったのです。現在、こうした活動は世界60カ国以上に広がっています。

日本における女性に対する暴力の現状

カナダに限らず、女性に対する暴力の問題は日本でも深刻です。内閣府の「男女間における暴力に関する調査」（平成26年度調査）によれば、既婚女性のほぼ4人に1人が、ドメスティック・バイオレンス（DV）、すなわち、配偶者からの身体的暴行、心理的攻撃、経済的圧迫、性的強要などを受けた経験があり、そのうち9人に1人が命の危険を感じるほどの被害を受けています。交際相手からの暴力（いわゆるデートDV）を受けた経験のある女性はほぼ5人に1人で、うち4人に1人が命の危険を感じています。最も安全であるはずの家庭や親密な人間関係の中で命の危険にさらされている人が大勢いるのが現状です。また、ほぼ10人に1

人の女性がストーカー行為の被害に遭っており、うち3割が命の危険を感じています。さらに、15人に1人の女性が異性から無理やり性交された経験があり、うち6割が、異性に会うのが怖い、外出が怖い、夜眠れないなど、心身に変調をきたしているのです。

暴力を振るわない男性こそが鍵を握る

女性に対する暴力といわれても、男性にとっては、自分が被害に遭うわけではないので、他人事のように思ってしまうかもしれません。また、男性の中には、自分は暴力を振るっていないのに、まるで自分が加害者側に立たされているかのようで気分が悪いので、こうした話題に加わりたくない、という人も少なくないように思います。

しかし、女性に対する暴力の問題は、男性にとっても決して他人事ではありません。DVによって苦しんでいる女性たちは、男性にとって大切な人たち、すなわち、娘、姉妹、母、友人、同僚、隣人たちなのです。妻や恋人がストーカーや性暴力の被害に遭うことだってあり得ます。自分が被害に遭っていないからといって、自分にとって大切な女性たちが傷つけられている社会が、男性にとって幸せな社会であるはずがありません。

ホワイトリボンキャンペーン創設者のカウフマンは言います。「暴力を振るわない男性が、暴力を振るう男性の代わりに罪の意識を感じる必要はない。しかし、女性に対する暴力に沈黙したままでいるなら、結局それを容認していることになる」と。つまり、暴力を振るわない大多数の男性たちが、女性に対する暴力に対して沈黙したままであるか、それとも、反対の声を上げてアクションを起こすかが、女性に対する暴力をなくしていけるかどうかを大きく左右するのです。



2016年5月 東京でのシンポジウム 参加者全員で「フェアメン宣言」

「フェアメン」になろう!

海外のホワイトリボンの団体との交流をきっかけとして、日本でも2012年から神戸で啓発活動が始まりました。そして、この活動を全国に広げるべく、2015年には大阪を拠点に「ホワイトリボンキャンペーン・ジャパン」が設立されました。今、最も力を入れている活動は、「フェアメン」を増やしていくことです。

「フェアメン」とは、決して暴力を振るわず、女性を対等なパートナーとして尊重し、社会にある女性への暴力に対して沈黙しない男性のこと。「フェアメンになろう!」を合い言葉に、シンポジウムやチャリティライブ、各種メディアを通じた啓発活動を行っています。確かに、こうした啓発活動によって、短期間で女性に対する暴力が激減することは期待できないかもしれませんが、しかし、世の中に「フェアメン」が増えていけば、女性に対する暴力、ひいてはあらゆる形態の暴力が、確実に減っていくはずですよ。男性のみなさん、一緒に「フェアメン」への一歩を踏み出してみませんか。

【参考文献】多賀太・伊藤公雄・安藤哲也「男性の非暴力宣言—ホワイトリボン・キャンペーン」岩波書店、2015年

